

岐阜県防災キャンプ推進事業 実施報告書



平成 3 0 年 2 月

岐阜県

目次

● 事業の趣旨	1
● 開催実績	1
● 運営体制	2
● 実施内容（伊深地域プラットフォーム【美濃加茂市】）	3
● 防災キャンプの普及啓発	6
● 地域プラットフォーム形成についての成果と課題	7

事業の趣旨

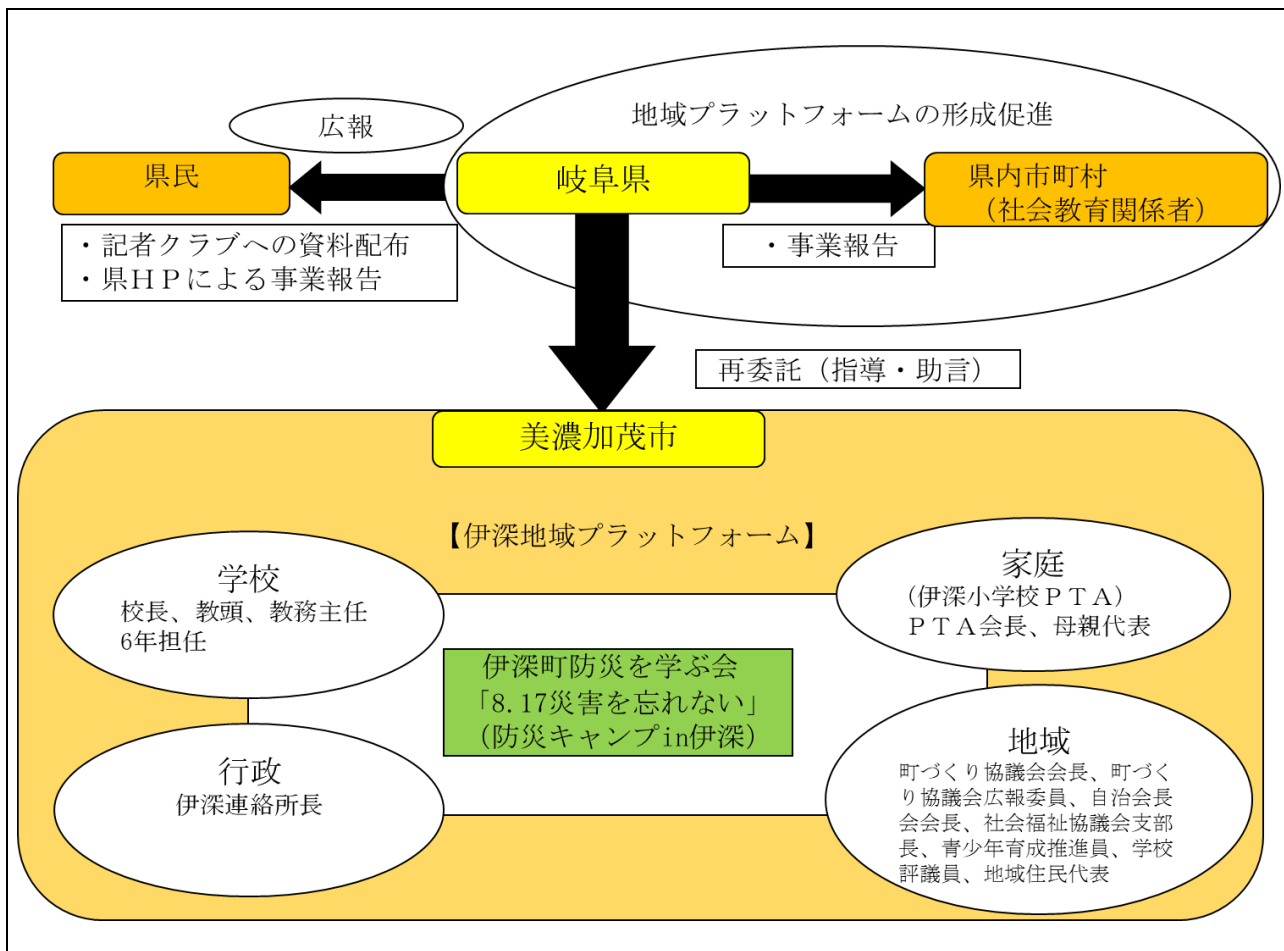
学校や公民館等を舞台に、学校や地域社会、関係機関等が協力して、防災キャンプを実施することによって、防災の大切さを実感する。また、共通の体験を通して地域の一員としての自覚を育てることによって、地域プラットフォームの形成に資する。

また、防災キャンプの実践を学校教育・社会教育関係者に広く周知することを通して、防災教育の推進と地域の防災活動の充実、および地域プラットフォームの形成の促進を図る。

開催実績

月 日	内 容
7月10日(月)	○第1回「防災キャンプ i n伊深」実行委員会 ・主旨及び実施要項の説明
9月6日(水)	○第2回「防災キャンプ i n伊深」実行委員会 ・事前学習について、役割分担について
9月29日(金)	○事前学習 ○第3回「防災キャンプ i n伊深」実行委員会 ・事前学習の見学 ・タイムスケジュールの確認
10月5日(木)	○防災オリエンテーリング ○第4回「防災キャンプ i n伊深」実行委員会 ・会場準備 ・役割やタイムスケジュールなどの最終確認
10月6日(金)	○防災キャンプ(1日目) ○第5回「防災キャンプ i n伊深」実行委員会 ・振り返り
10月7日(土)	○防災キャンプ(2日目)
10月10日(火)	○防災川柳作り
11月14日(火)	○第6回「防災キャンプ i n伊深」実行委員会 ・事業報告、決算報告
11月30日(木)	○岐阜県社会教育主事等研修会兼地域コーディネーター研修会にて実施報告
12月1日(金)	○岐阜県社会教育主事等研修会兼地域コーディネーター研修会にて実施報告

運営体制



<再委託先詳細>

委託先	美濃加茂市教育委員会
委託先住所	美濃加茂市太田町1900番地1
再委託の範囲	防災キャンプの実施
再委託の必要性	地元の自治体である市で実施することで学校と地域の連携が図られ、より高い普及・教育効果が期待できる。

実施内容

○伊深地域プラットフォーム（美濃加茂市）

【活動名】

防災キャンプ in 伊深

【活動趣旨】

キャンプの企画・運営の課程で、地域に存在する組織をネットワーク化し、地域の防災への関心を高めるとともに、地域住民の地域プラットフォーム形成への参画を促進する。また、地域に発生した過去の大規模災害を教訓として、子どもたちがさまざまな体験を通して、災害への備えや、災害時に自分にできることについて学ぶことで、自分の命を守ることや自分たちの地域を自分たちで守ろうとする意識を育てる。

【実施日】

平成29年9月29日（金）、10月5日（木）、10月6日（金）～7日（土）、10月10日（火）

【実施場所】

美濃加茂市立伊深小学校（美濃加茂市伊深町888-2）

【参加範囲】

美濃加茂市立伊深小学校全校児童（但し、10月6日（金）の宿泊については5・6年児童のみ）

【参加人数】

事前学習（9月29日、10月5日） 83名（児童59名、学校職員12名、実行委員12名）

当日（10月6日～7日） 70名（児童17名、学校職員9名、実行委員12名、
地域住民32名）

事後学習（10月10日） 19名（児童17名、学校職員2名）

【プログラム】

日時	プログラム	プログラム詳細
9月29日(金) 14:00～15:00	事前学習	・伊深町で発生した過去の災害「8.17災害」の体験者からの講演（地域住民3名）
15:00～16:00	手作り防災グッズ作り	・新聞紙を活用したスリッパ、広告を活用した紙皿、キッチンペーパーを活用したマスクを作成
10月5日(木) 8:40～10:40	防災オリエンテーリング	・通学班で通学路を歩き、「地震」「大雨」「交通」「自然」の4つの視点で危険箇所を探し、タブレットを活用して写真を撮影
10月6日(金) 14:00～15:00	防災マップ作り	・防災オリエンテーリングで見つけた危険箇所をもとに防災マップを作成
15:30～16:30	防災講演会	・「自分の命を守るために～災害の教訓から学ぶ」（講師：防災士 岩井慶次氏）

16:30~17:30	避難所運営訓練 炊飯	<ul style="list-style-type: none"> 地域の避難住民の受け入れ 日本赤十字社非常災害用ハイゼックス包装食袋を活用した炊飯
17:30~18:30	住民向け防災講演会	<ul style="list-style-type: none"> 「家庭における災害への備え」 (講師：防災士 岩井慶次氏)
18:30~19:00	炊き出しの試食	<ul style="list-style-type: none"> ハソリを活用した豚汁
19:00~20:00	避難所パーティション設営	<ul style="list-style-type: none"> 防災士の指導を受け、避難所パーティションを設営
20:00~21:00	暗闇体験	<ul style="list-style-type: none"> 懐中電灯の明かりだけを頼りに校舎内を1周
21:00~22:00	反省会 宿泊体験	<ul style="list-style-type: none"> 1日目の活動の振り返り
10月7日(土)	起床	<ul style="list-style-type: none"> 避難所パーティションの片付け
6:00~7:30		
7:30~8:30	朝食	<ul style="list-style-type: none"> 牛乳パックを活用した「カートンドッグ」作り
8:30~9:00	全体会	<ul style="list-style-type: none"> 防災キャンプのまとめ
10月10日(火)	防災川柳作り	<ul style="list-style-type: none"> 「防災キャンプ in 伊深」の活動全体を振り返り、防災に関して学んだことの川柳を作成
8:40~9:25		



手作り防災グッズ作り



防災オリエンテーリング



防災マップ作り



防災講演会



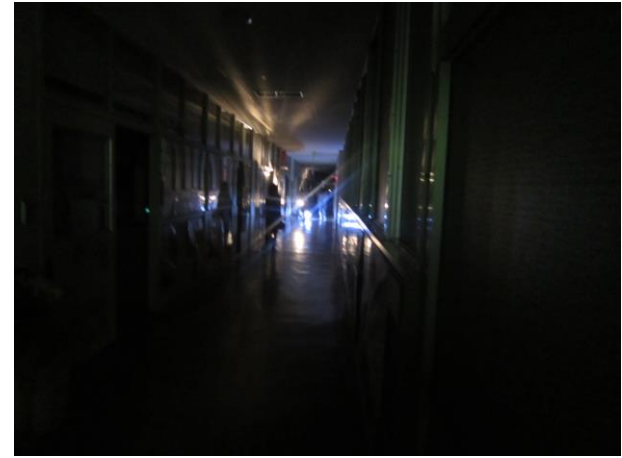
ハイゼックス包装食袋を活用した炊飯



住民向け防災講演会



避難所パーティションの設営



暗闇体験



牛乳パックを使ったカートンドッグ作り



防災川柳作り

【参加者の感想】

- ・過去の災害体験者の生の声を聞いたことで、災害への知識を広め、災害への備えの必要性を感じた。
- ・大人の方々が行っていた炊き出しの現場を見たことや、実際に自分たちで非常食を作ったことなど、災害時の様子を味わうことができた。
- ・防災士による具体的で、体験や実践に基づいた講演会を通して、過去の災害から多くのことを学ぶことができ、自分の命を守るためには、どのような行動をとり、どのような備えをしなければならないかを考えることができた。
- ・暗闇体験を通して、電気の無い生活の不便さを感じる事ができた。

- ・実行委員会のメンバーである地域住民12名と学校との連携を図り、この活動を進めることができたことは、今後の教育活動への大きな支えにつながった。
- ・大きな避難所は、自治会のようにコミュニティを作って運営されるので、地区ごとの受付ということで考えられたことは大変よかった。
- ・講演の内容については、とても参考になった。理論的でなく、具体的、体験・実践に基づいたお話がとてもよく理解できた。
- ・実際に活動している人でないと聞けない内容のためになった。
- ・ハソリ鍋で水を沸かして米を炊いたことはあったが、豚汁は初めてで、予想以上に手間がかかった。気が付かなかった準備品の不足もたくさんあり、いい経験になった。炊き出しにも子供達に関わると良かったと思った。
- ・こうした行事を毎年実施できれば良いと思った。地域と保護者や子供達が一緒に勉強できることが大切である。とてもいい訓練になったと思う。

防災キャンプの普及啓発

○岐阜県社会教育主事等研修会兼地域コーディネーター研修会

【実施期日／実施場所】

平成29年11月30日（木） 恵那総合庁舎大会議室（恵那市長島町正家後田1067-71）
 12月 1日（金） ハートピア安八研修室（安八郡安八町氷取30番地）

【参加人数／参加対象】

- 79名／①県・市町村の社会教育主事等生涯学習・社会教育担当職員
 ②県・市町村の社会教育施設等で生涯学習・社会教育に関連する業務に従事する職員
 ③市町村の各種事業における地域コーディネーター及び今後市町村において地域コーディネーターとしての活躍を期待される者
 ④岐阜県コミュニティ診断士や岐阜県生涯学習コーディネーター等、社会教育・生涯学習に関する資格取得者



平成29年度文部科学省委託事業
 「子供と自然をつなぐ地域プラットフォーム形成支援事業」

岐阜県防災キャンプ推進事業 「防災キャンプの成果と今後の展望」



岐阜県環境生活部環境生活政策課

実践発表の様子

地域プラットフォーム形成についての成果と課題

【成果】

①防災に対する関心の深まり

- ・防災の専門家である講師の話を書くことやさまざまな防災体験プログラムを通して、災害を自分のこととして考えることができ、防災に対する関心が深まった。

②地域住民との交流

- ・子どもたちと地域住民と一緒にプログラムに参加したことで、共に助け合うことの大切さや自分ができることについて理解を深めることができた。
- ・事業の実施にあたって学校、行政、家庭、地域が協力して取り組んだことで、地域全体で人づくりやまちづくりを行う地域プラットフォームの地盤を形成することができた。

【課題】

○事業成果の周知

- ・防災キャンプを通じたプラットフォーム形成に関する事業成果を学校教育・社会教育関係者に広く周知することを通して、防災教育の推進と地域の防災活動の充実、および他地域の地域プラットフォームの形成の促進を図る。

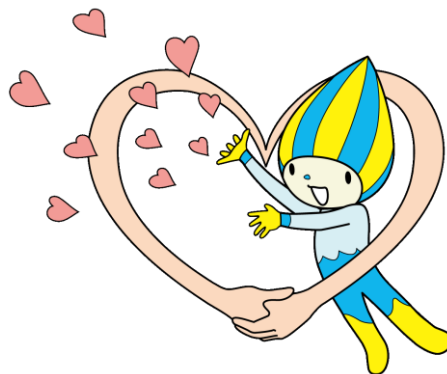
【今後の方向性・取組】

①持続可能な仕組みづくり

- ・今回のキャンプが単発の活動で終わってしまうことのないよう、地域と学校が連携し、継続、そしてさらなる発展をしながら実施する仕組みを作っていく。

②地域プラットフォームの拡大

- ・今回のキャンプで形成された地域プラットフォームを防災教育にとどまらず、人づくりやまちづくりなどさまざまな分野で生かしていく。



本報告書は、文部科学省の平成29年度委託事業として、岐阜県が実施した平成29年度「子供と自然をつなぐ地域プラットフォーム形成支援事業」の成果を取りまとめたものです。

岐阜県防災キャンプ推進事業実施報告書

編集・発行 平成30年2月

岐阜県環境生活部 環境生活政策課

〒500-8570 岐阜市藪田南2-1-1

TEL:058-272-8752 FAX:058-278-2605

E-Mail:c11260@pref.gifu.lg.jp